

○地域協議会での意見及び対応（反映）状況（H29年度）

協議会開催日	委員属性	委員からの意見	対応（反映）状況
H29.11.10	医師会	南区医師会は、在宅医療の充実を挙げており、待機医制度を取り、将来的には24時間365日での稼働を試みたいため、協力をお願いしたい。	南区医師会の平成29年度在宅医療の24時間体制構築のモデル事業である、「平成30年度在宅医療バックアップ体制事業」の問題点の抽出のために、当院有志の医師が、バックアップ医として試験運用に協力した。
H29.5.19	医師会	南区全体の医療における最後の砦は、中京病院であるため、より深い病診連携をお願いしたい。	救急要請の入った場所の最寄りの救命救急センターは、必ず3次救急を受け入れることや救急隊員に受け入れ先を探させるのではなく、救命センター間で情報交換を行い、いずれかの病院で受け入れるといった協定を結んだ。時間外における小児科医直通phs電話の運用を開始した。時間外に、当院小児科医への診察依頼や入院依頼、その他の相談ができるようにし、登録医800施設へアナウンスした。
H29.5.19	関係医療機関	地域の訪問看護ステーションとして、充実した訪問看護が提供できるよう協力をお願いしたい。	在宅療養のための退院支援をした患者の事例を通じて、訪問看護ステーションとケアマネージメントセンターと当院スタッフとで年2回の症例検討会を行った。
H28.11.18	行政	地域包括ケアについて協力をお願いしたい。	老人施設・特別養護老人施設・有料老人ホーム等との施設間連携会を開催した。テーマは、「エンドオブライフ人生の最終段階の医療」「高齢がん患者に対する施設間連携」「施設における看取りのケアについて」等意見交換し、医療施設でない場所で看取りを行うことの不安や葛藤を抱えながら救急搬送する現場の現状や医療施設側のフレキシブルな相談体制の必要性について話し合った。
H28.5.20	医師会	医療連携は病診連携だけでなく、病病連携も非常に重要になってくるため協力をお願いしたい。	地域医療構想において、名古屋・尾張中部医療圏での自主的な協議の場として、名古屋南部地域医療連携推進協議会を近隣8病院院長が発起人となり設立した。10月に設立総会を開催し、院内外より101名参加。当院院長が代表に就任し、事務局は当院が担当となった。第2回協議会では、93名参加。現在38施設が同協議会に加入し、名古屋南部の地域医療構想を検討する場となっている。
H.27.5.15	医師会	市民への健康・医療に関する啓もう活動などへの協力をしてほしい。	市民公開講座として、小学生を対象とした「中京病院 見学・体験ツアー！がんについて学ぼう！」を企画した。名古屋市教育委員会へ協力を求め参加募集したところ、395組859名の応募があった。体験型であったため、参加を22組46名と限定し開催した。参加をした小学生とその保護者ともども熱心に病院内体験をしていた。 すこやか教室（健康講座）を開催した。AEDのデモ機を市民の方に触れていただくことで、活発な教室の開催となった。